

The 26th International Conference on Information Modelling and Knowledge Bases, EJC 2016 での口頭発表

慶應義塾大学 環境情報学部 4年 引地 志織

1. 活動日程・会場

日程：2016年6月6日~2016年6月10日

会場：Tampere, Finland

2. 活動の目的

本活動の目的は、The 26th International Conference on Information Modelling and Knowledge Bases, EJC 2016 にて、自身の筆頭著書論文である“Human-Microbiome-Relations Extraction Method with Context-dependent Clustering and Semantic Analysis”について口頭発表を行い、属性分類のための特徴量を発見・認知する文脈依存型関連性計量システムの実現に向けて、世界中の研究者や企業の方に本論文の重要性について理解を得ると共に、本国際学会での質疑応答や議論の結果を今後の研究活動に生かすことである。

3. 発表内容

本活動では、分析者自身の背景知識が問われる理解が難しいデータの一例として、腸内細菌データを対象としたデータ構造化と分析手法の定式化を行い、ヒト属性（e.g. 食習慣に関する国籍や性別）分類に関する特定の腸内細菌種の組み合わせを発見的に抽出するクラスタリングアルゴリズムの発表を行った。本論文は、腸内細菌叢データやメタボロームデータという生命科学分野の専門的なデータの適用により、新規治療法を提案できる応用可能性を持ち合わせており、情報分野と生命科学分野の両分野において新たな方向性を示すものとして期待されている。本活動では、世界中の研究者や企業の方に本論文の重要性についてアピールすることができた。



図 1: 研究発表資料 (一部)

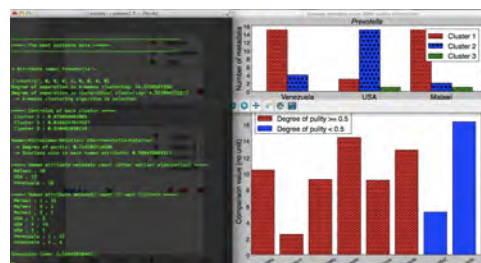


図 2: 実装したシステムのデモ

4. 活動の成果

The 26th International Conference on Information Modelling and Knowledge Bases, EJC 2016にて、自身の筆頭著書論文である“Human-Microbiome-Relations Extraction Method with Context-dependent Clustering and Semantic Analysis”について口頭発表を行った。さらに、本国際会議において、ヨーロッパ諸国、アジア諸国の研究者と交流し、知識発見システムの先端研究の方向性、国際研究動向について、ディスカッションを行い、今後の研究発展に向けて知見を得ることができた。特に、口頭発表終了後は世界各国の研究者や企業の方との質疑応答や議論をすることができ、自身の研究を発展させるための技術面の意見だけではなく、背景知識の異なる方へ伝えるという発表面の技術についても学ぶことができた。



図 3: 学会会場 (Tampere, Finland)

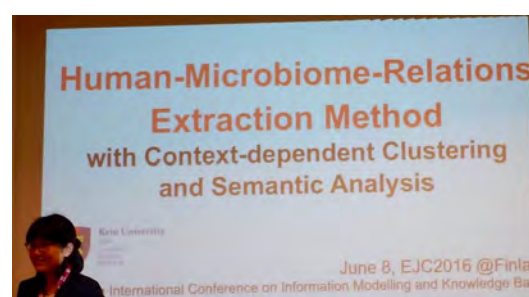


図 4: 口頭発表の様子

5. 今後の発展

本活動の成果は国際学術誌への投稿を控えており、今後の研究活動についても本活動をベースに口頭発表において議論した内容を踏まえて発展させていきたいと考えている。

6. 謝辞

本学会参加にあたり、資金面でご援助いただきました湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。